

東京五輪キャンプ誘致に向けて

7月12日、奥出雲町は鳥根リハビリテーション学院（谷河精規学院長）、鳥根県アスレティックトレーナー協議会（川本晃平会長）とスポーツメディカルサポート協定を結びました。

この協定は、2020年東京オリンピックホッケー競技の事前キャンプ誘致やスポーツ合宿誘致に向け、けが予防等のメディカルサポートを提供し、交流人口の拡大や地域の活性化を図ることを目的としたものです。

メディカルサポートは、同学院の教員、学生と同協議会が行い、けが予防のテーピングやストレッチ、トレーニングメニューの考案、けがの応急処置などのサービスを町内スポーツ合宿参加者へ提供します。

今回の協定によって、同協議会はアスレティックトレーナーの育成と活用、同学院は、理学療法士のスポーツ分野における実践的な教育に取り組めることが期待され、町としてはこの充実したメディカルサポートをアピールしてスポーツ合宿等の誘致を進めていく予定です。



左から谷河学院長、勝田町長、川本会長



日本刀の原材料となる玉鋼

(株)ニッポーが製造機械を増設

電子制御機器などを設計、製造及び販売をしている株式会社ニッポー（埼玉県川口市）は、下横田にある鳥根工場の製造機械増設、出雲市での拠点整備など新規計画の認定を受けたことに伴い、7月12日、立地に関する覚書を鳥根県、出雲市、奥出雲町と交わしました。

同社は、昭和59年に下横田に鳥根工場を立地してから32年が経過し、これまでに雇用創出、地域経済発展、地域活性化などに寄与されてきました。今回の計画によって、雇用増などが期待されます。



左から勝田町長、溝口県知事、若槻代表取締役、長岡出雲市長

ものづくりの聖地を目指して

奥出雲たたらブランド推進会議を設置

8月1日、たたらブランドの確立を行うことを目的に「奥出雲たたらブランド推進会議」が設置され、第1回推進会議を開催しました。

推進会議の委員には、有力鉄師であった糸原家、櫻井家、田部家の当主や大学教授、博物館館長といった有識者の15名が就任されました。

今後、同会議はたたらブランド確立のための調査研究、和鉄を活用した加工品の開発、デザイナー等の人材の誘致などで和鉄の価値を高め、奥出雲の地域ブランドの確立、人々の交流促進を目指します。



会議の様子



八川分団出場隊（小型ポンプの部）



八川分団の操法



布勢分団出場隊（ポンプ車の部）



布勢分団の操法

第60回鳥根県消防操法大会

第60回鳥根県消防操法大会が7月31日、出雲市斐川西中学校グラウンドで開催され、本町を代表して布勢分団、八川分団が出場しました。このうち、ポンプ車の部に出場した布勢分団が卓越した技術を存分に発揮し、180点（200点満点）で準優勝を獲得しました。小型ポンプの部に出場した八川分団も健闘しましたが一歩及ばず、78点（100点満点）で第8位となりました。

両分団とも約半年に亘る厳しい訓練を乗り越えての奮闘で、競技終了後、応援に駆けつけた消防団員、選手家族、地元自治会の皆さんから温かい拍手が送られました。選手・関係者の皆さん、大変お疲れ様でした。

また、今大会は第60回記念大会ということで、三成分団・亀嵩分団による部隊訓練模範披露が行われ、統率のとれた中隊行進間の動作を披露し、奥出雲町消防団のレベルの高さを示しました。



町立奥出雲病院で
消火技術大会開催

病院での消火技術の向上と、防火意識の高揚を目的に、町立奥出雲病院の「消火技術大会」が7月28日に行われました。

この大会は平成14年から毎年行われ、今年で15回目の開催です。

今回は、部署毎に組まれた7チームが出場。消火器による消火と消火栓からの放水による消火を行い、その正確さとスピードを競いました。

また、避難方法について雲南消防本部から指導を受け、病院関係者全員が防火意識を新たにしました。